

漁況情報の収集・管理及び提供

(漁獲情報収集管理事業及び新漁業管理制度推進情報提供制度)

松尾和彦

1 目的

漁業資源の適切な管理及び利用を行うため、関係漁協の協力により毎月のセリデータ収集及び漁獲統計等を整備し、漁況情報等を漁業者及び水産関係者に提供する。

2 方法

県内22漁協と漁連から、毎月のセリデータを電子メール、FD、MOまたはセリ帳の形で入手した。入手したこれらの情報は、水研でデータベース化後、毎月それらを基に各漁協ごとに魚種別、旬別漁法別漁獲量等の月報及び年報を発行している。パヤオ漁と定置網漁はセリデータを取りまとめ、毎月、漁海況情報を発行している。

ソデイカはセリ販売されるのは一部であるため、ソデイカ漁期中（11－6月）は、県内24漁協のソデイカ水揚げ量をアンケート調査し、集計したソデイカ月報を毎月発行している。

また、ソデイカの水揚げがある全国13県のソデイカ漁獲量を各県に集計、報告していただき、それを基にソデイカ情報を年1回作成し、水産関係者に広報している。

3 結果と考察

2006年の沖縄島中南部4漁協（糸満、港川、知念、沖縄市）のパヤオでのキハダ（10kg以上）の漁獲量は360tで、過去5年平均の漁獲量372tをやや下回った（図

2）。シビ（10kg未満）の漁獲量は324tで、過去5年平均の漁獲量251tを大きく上回った（図3）。

2005年11月～2006年6月（2005－2006期）の全県のソデイカ漁獲量は、前期を上回る約1,560tだった。過去5年平均の漁獲量2,006tを下回った（図4）。

糸満漁協におけるソデイカ漁のCPUE（漁獲量／のべ水揚げ隻数）及び漁獲量は2006年は682t/隻で2005年より584t/隻だった。これは前年より魚価がよかったことにより、漁業者の操業意欲が高かったためと考えられる。

2006年の沖縄島7漁協（読谷、知念、石川、名護、勝連、与那城、金武）の大型及び小型定置網で一番多かった魚種はミズン類であった。また、2005年と比較してメアジが大きく減少しているのが、特徴的である。主要魚種5種類の漁獲量は2006年は102tで、過去5年間の平均133tを下回った。

4 今後の課題

今後とも沖縄県の有用水産資源を継続的に利用していくためには、資源の適切な管理が必要である。そのために統計データは、重要な基礎資料であり、継続的な蓄積が不可欠である。また、その他諸施策を積極的に推進していくためにも統計データは、重要な指標であり、当該業務を継続していく必要がある。

また、セリデータを中心に集計しているため、一部マグロ類等に関して漁獲情報がないものがある。包括的にデータを集計をできるように強化が必要である。

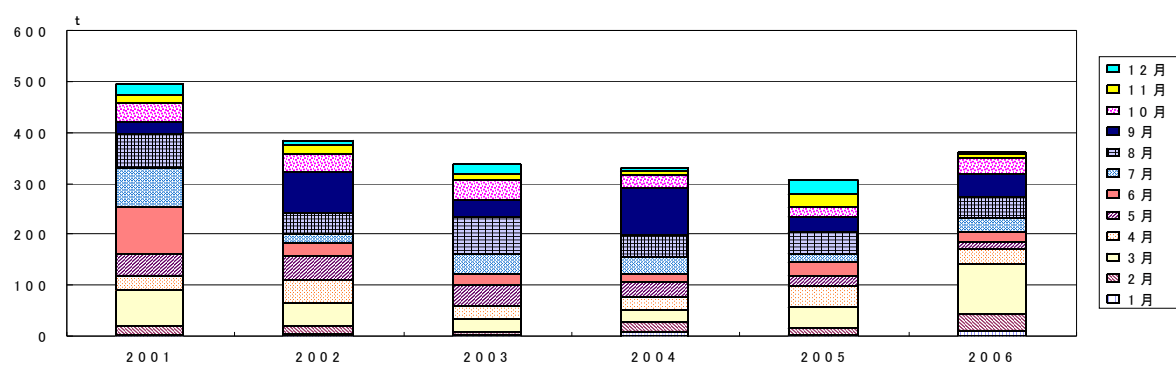


図1 沖縄島中南部4漁協キハダ漁獲量の推移

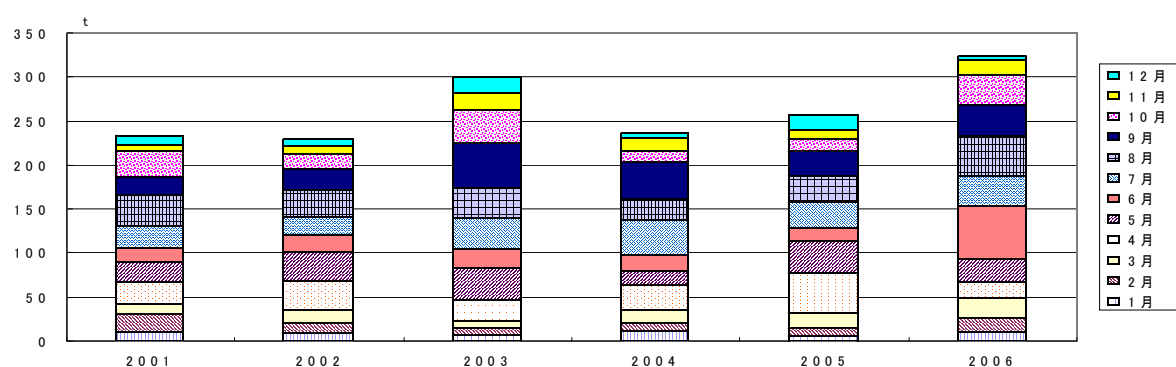


図2 沖縄島中南部4漁協シビ漁獲量の推移

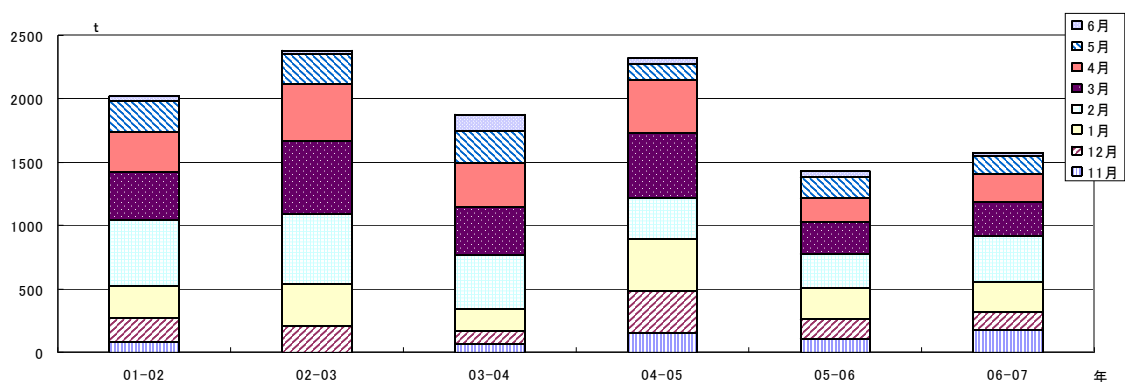


図3 ソデイカ漁獲量の推移

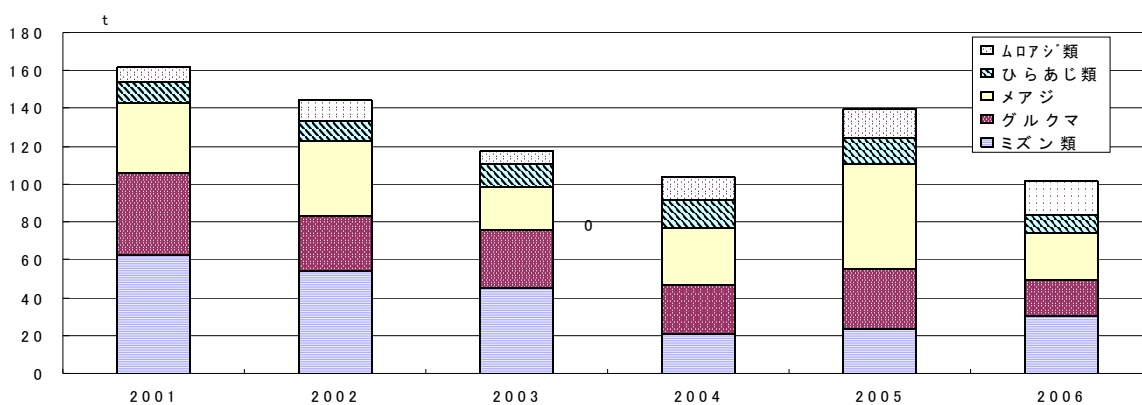


図4 沖縄島7漁協定置網漁主要魚種漁獲量の推移